

第二種特定鳥獣管理計画（2017～2021）の対策の実施状況及び評価

○特定鳥獣の管理の目標

●ニホンジカ

項目	達成状況	現状等（数値は2017年度→2020年度の変化）
農林業被害等の未然防止又は減少	△	農業被害額 増加：22,356→30,712千円 林業被害面積 減少：9.0→8.7ha
個体数を削減し、生息密度の低減	△	推定生息数 増加：22,372→23,299頭 推定生息密度（平均） 増加：8.5→8.8頭/km ²
生息分布の縮減	×	県西部方向に分布拡大

●イノシシ

項目	達成状況	現状等（数値は2017年度→2020年度の変化）
農業被害等の未然防止又は減少	△	農業被害額 減少：89,288→69,518千円
個体数を削減し、生息密度の低減	△	推定生息数 14,245→14,129頭* 推定生息密度 4.7→4.7頭/km ² * * 豚熱の影響は含めず。
生息分布の縮減	×	一部地域で分布拡大

●ニホンザル

項目	達成状況	現状等（数値は2017年度→2020年度の変化）
農業被害等の未然防止又は減少	△	農業被害額 増加：23,798→28,282千円
加害群の除去又は減少	×	群れの加害レベルの把握及び群れ単位での管理はできていない。
生息分布の縮減	×	一部地域で分布拡大

●カモシカ

項目	達成状況	現状等（数値は2017年度→2020年度の変化）
林業被害等の未然防止又は減少	○	林業被害面積 減少：0.1→0.0ha 分布は拡大、農業被害額は増加：1,225→4,581千円

表中の「達成・実施状況」の欄の凡例

- ＝目標：概ね達成できている。
対策：概ね実施できている。
△＝目標：達成できているところもあるが、そうでないところもあり、引き続き施策等を検討する必要がある。
対策：概ね実施できているが、引き続き実施方法等を検討する必要がある。
×＝目標：達成できていない。引き続き施策等を検討する必要がある。
対策：実施できていない。引き続き実施方法等を検討する必要がある。

次期計画の目標等の設定の考え方

環境省のガイドラインの内容を踏まえ、目標を検討。

- ・できる限り数値評価が可能な目標を設定。
- ・シカは類型区分の考え方、イノシシは侵入初期段階、サルは群れごとの管理を重視し、目標及び地域区分を検討。

○目標を達成するための対策

（特に獣の種類の記述がないものは4獣に共通する対策）

項目	対策	実施状況	実施状況等
順応的管理	施策の推進及び評価、施策の見直し	○	実施方法は要検討。
エリア管理	重点管理、拡大防止等のエリアを設置、対策の推進	△	エリアごとの有効な施策展開に至っていない。
目標頭数の設定	シカ 5,000頭/年度	△	概ね達成 捕獲数4,043～6,088頭（17～20年度）
	イノシシ 1万頭/年度	△	未達成 捕獲数4,980～9,250頭（17～20年度）
	サル 加害個体又は加害群の除去	×	加害群を特定した捕獲は実施できていない。
	カモシカ 加害個体又はその可能性の高い個体の除去	○	東栄町、設楽町の2町において実施。
捕獲の実施	指定管理鳥獣捕獲等事業を実施（シカ、イノシシ）	△	捕獲目標は未達成。実施体制については要検討。
	捕獲上限数緩和（シカ） 狩猟期間延長（シカ、イノシシ）	○	今後は捕獲上限（シカ）は撤廃、 狩猟期間の延長は継続。
	メス捕獲推進（シカ）、成獣捕獲推進（イノシシ）	×	実施の可能性について要検討。
	捕獲技術の開発、効果的な捕獲の実施	○	効果的な捕獲のためのわな（「おりべえ」など）を開発
狩猟者の確保	狩猟免許の取得推進、免許取得者への講習会の実施	○	今後も効果的な方法で実施を継続。
	狩猟事故、錯誤捕獲防止のための講習会の実施	△	講習会という形では実施できていない。
農林地対策	電気柵、大規模侵入防止策等の設置	○	国及び県の交付金事業を活用し設置を推進。
生息環境管理	森林環境の改善	×	未実施。実施の可能性について要検討。
	誘因物の除去	△	除去の呼びかけを実施。実施方法については要検討。
計画の実施体制	市町村：実施計画の作成及び実施、地域における情報収集及び提供、捕獲体制の整備	△	実施計画に基づき、対策を実施。地元への指導助言の実効性については要検討。
	県：実施計画の検討、施策の評価、科学的・計画的な実施体制、隣県との協力体制の整備	△	実施計画を評価し、検討会での審議を実施。市町村への展開方法については要検討。
計画の評価	—	△	検討会での評価、検討に留まり、具体的な検討・対策には至っていない。
その他管理のために必要な事項	関係機関との連携	△	隣県、他部局との連携について要検討。
	市街地出没対策	△	出没時の情報収集し、関係機関との共有を実施。 緊急的な捕獲体制の整備については要検討。
	ジビエの推進（シカ、イノシシ）	○	引き続き実施。
	情報収集・普及啓発	△	普及啓発の方法については要検討。

○現行計画における課題

【目標】

- 推定生息数、生息密度の減少がみられない。（シカ）
- 豚熱の影響を把握し、生息状況等の実態を明らかにする必要がある。（イノシシ）
- 分布域は、拡大傾向。（4獣共通）
- 農業被害は、防護柵の設置等により、長期的には減少してきたが、分布域の拡大に伴い被害が増えるなど、ここ数年ではあまり改善されていない。（シカ、イノシシ、サル）

【対策】

- 分布域の拡大地域における対策について要検討。（4獣共通）
- 目標、方針等の関係機関との共有、連携について要検討。（4獣共通）
- 加害レベルの判定、群れ単位での管理について要検討。（サル）
- 情報提供、普及啓発の方法について要検討。（4獣共通）